

事業概況(連結)

当中間期の概況

当上半期におけるわが国経済は、国際情勢の不安定要因等により、一時景気の減速が懸念されましたが、その後の米国経済の回復や株式市場の上昇などから、設備投資の持ち直しや生産の改善が見られ、景気は回復基調にあるものの、全体としては厳しい状況で推移いたしました。

トラック輸送業界におきましても、輸送需要の回復は未だ期待できず、新たに発足した日本郵政公社を含め、価格競争をはじめとした企業間の競争は激しく、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもとで当社企業グループは、営業力の強化と収益構造の改善を目指し、多店舗化の推進と事務作業の集約化を進めるなど、宅急便ネットワーク再構築に取り組んでまいりました。

営業面におきましては、インターネット環境に対応する伝票発行ソフトB2の導入や「SDダイレクト通信」の充実をはじめ、本年4月1日に「クロネコメール便」をリニューアル発売し、積極的な営業を展開するなど、お客様の利便性の向上と増収に努めてまいりました結果、営業収入は4,843億62百万円となり前年同期に比し5.0%増加いたしました。

利益面におきましては、宅急便ネットワーク再構築ならびに「クロネコメール便」の体制強化にともなう諸費用が増大したため、営業利益が160億34百万円となり前年同期に比し33.2%の減少となりました。これに営業外損益を含めた経常利益は、170億45百万円となり、前年同期に比し32.3%の減少となりました。中間純利益におきましても、63億99百万円となり、前年同期に比し54.0%の減少となりました。

事業フォーメーション別の業績は次のとおりであります。今期より宅急便・「クロネコメール便」を中心としたデリバリー事業、法人向けのロジスティクスを提供するBIZ-ロジ事業、生活者向けサービスを行うホームコンビニエンス事業、法人向け情報システム開発を行うe-ビジネス事業、企業および一般消費者向け決済や集金代行を行うフィナンシャル事業の5つの事業に分類しております。

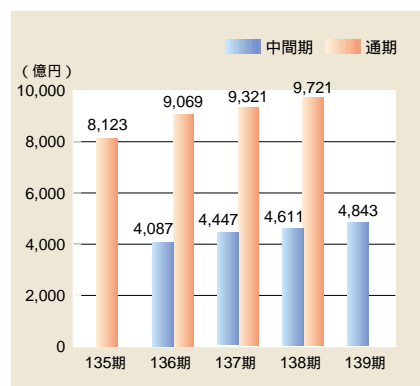
デリバリー事業

デリバリー事業におきましては、宅急便業務は全般的に堅調に推移いたしました。「クール宅急便」の取扱個数は58百万個となり、前年同期に比し4.7%増加し、「コレクトサービス」は30百万個となり、前年同期に比し8.7%増加いたしました。その結果、宅急便の総取扱個数は4億85百万個となり、前年同期に比し2.6%増加いたしました。また、「クロネコメール便」につきましては、本年4月1日よりリニューアル発売をしたことなどにより、大幅に増加いたしました。これに、鉄道、国内航空、その他業務などを併せたデリバリー事業の営業収入は3,978億33百万円となり、前年同期に比し3.8%増加いたしました。

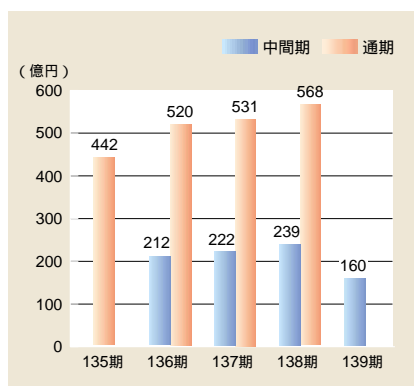
BIZ-ロジ事業

BIZ-ロジ事業におきましては、本年4月1日にロジスティクス事業の一部を会社分割し、ヤマトロジスティクス株式会社に、海上フォワーディング事業、通関事業、美術品輸送事業ならびに国際引越事業を会社分割し、ヤマトグローバルフレイト株式会社にそれぞれ承継させ、内外一環のロジスティクス事業の体制を整備し、積極的

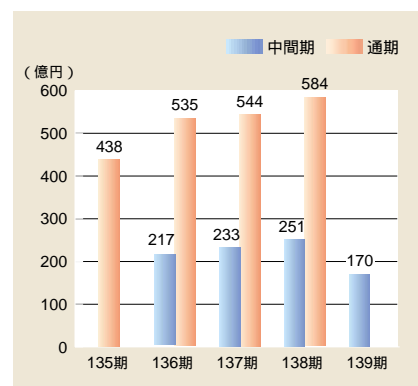
営業収益



営業利益



経常利益



に営業展開した結果、BIZ-ロジ事業の営業収入は446億29百万円となり、前年同期に比し14.1%増加いたしました。

ホームコンビニエンス事業

ホームコンビニエンス事業におきましては、本年7月1日に東北、北信越、中国地域の引越事業を会社分割し、生活者向けサービスを提供しているヤマトホームサービス株式会社と地域毎に統合を行い、社名も「ヤマトホームコンビニエンス株式会社」と改めて積極的に営業展開した結果、引越、物品販売などを含めたホームコンビニエンス事業の営業収入は207億53百万円となり、前年同期に比し10.0%増加いたしました。

e-ビジネス事業

e-ビジネス事業におきましては、東京都江東区に新データセンターを4月に竣工し、最新の施設と設備で「安全」と「安心」ならびに「低コスト」を訴求したサービスの積極的な営業に努めてまいりました結果、営業収入は102億9百万円となり、前年同期に比し8.4%増加いたしました。

フィナンシャル事業

フィナンシャル事業におきましては、主力商品であるコレクトサービスの増送キャンペーンを展開するなど、積極的な営業活動を実施した結果、フィナンシャル事業の営業収入はコレクトサービスの手数料およびリース料収入を含め109億36百万円となり、前年同期に比し4.2%増加いたしました。

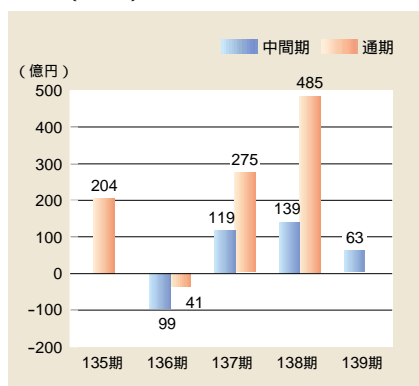
通期の見通し

下半期につきましても、引き続き厳しい経営環境が続くものと予想されます。このような状況のなかで当社企業グループは、「ヤマトグループ新生進化3か年計画」にもとづき、企業グループ全体での業績向上を目指してまいります。宅急便業務につきましては、宅急便エリア・センター制を軌道に乗せ、お客様により一層ご満足いただけるサービスの実現と増収に努めてまいります。また、「クロネコメール便」につきましては、リニューアル発売した新商品の営業に邁進し、収益拡大を目指してまいります。

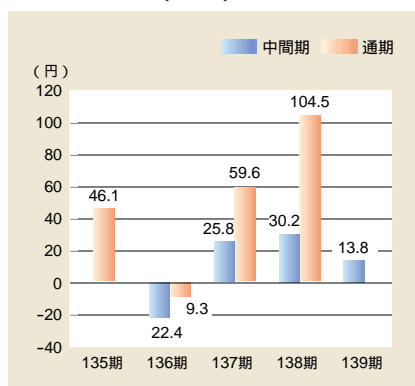
一方では、サービスセンターおよび事務管理センターの業務効率を改善し、コスト競争力を高めるなど、企業体質の強化に向けて全社一丸となって努めてまいり所存であります。

業績の見通しといたしましては、営業収益1兆60億円、営業利益420億円、経常利益435億円、当期純利益200億円を見込んでおります。

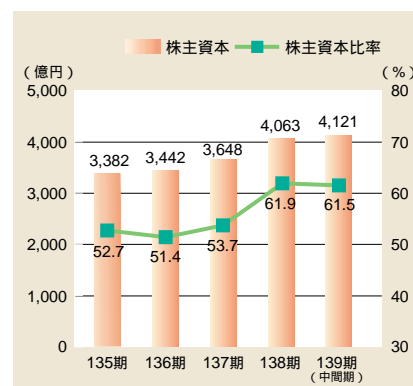
中間(当期)純利益



1株当たり中間(当期)純利益



株主資本/株主資本比率



1株当たり中間(当期)純利益は、期中平均株式数(自己株式除く)で算出しております。 135期は中間期の連結決算をしておりません。